

(様式 13)

氏名(本籍) 新家 央康 (群馬県)
学位の種類 博士(歯学)
学位記番号 甲 第376号
学位授与日 2021年3月15日
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第1項該当者)
学位論文題目 歯周病患者におけるインプラント周囲のプロービングデプスに関する臨床的研究
論文審査委員 (主査)教授 申 基喆
(副査)教授 藤澤 政紀
(副査)教授 天野 修
(副査)教授 横瀬 敏志

論文内容の要旨

本研究の目的は、歯周治療後にインプラント治療を行ったメンテナンス中の患者において、健康なインプラント周囲組織におけるプロービングデプス (PD)、プロービング時の出血 (BOP) および角化粘膜幅の関連性を明らかにすることであった。

124人の患者において、501本のインプラントおよび3006か所の検査部位の評価を行った。BOPが陰性であり、健康と考えられるインプラント周囲組織において、PDは、臼歯部よりも前歯部で、下顎よりも上顎で有意に大きいことが示され、インプラント埋入部位に影響を受けていることが示唆された。また、BOP陽性率は、PDが大きくなるに従って有意に高くなり、PDが3mm以上の部位では、角化粘膜が無い部位は有る部位よりも有意に高かった。したがって、インプラントにおいては、PDが大きいほどインプラント周囲において炎症が生じており、PDが大きい部位では、角化粘膜が存在しないと、さらにインプラント周囲疾患発症のリスクが増大することが示唆された。

論文審査および試験結果の要旨

本論文は、歯周病患者におけるインプラント周囲のPD、BOPおよび角化粘膜幅の関連性を検討したものである。本論文の結果から、インプラントにおいては、PDが大きいほどインプラント周囲において炎症が生じており、PDが大きい部位では、角化粘膜が存在しないと、さらにインプラント周囲疾患発症のリスクが増大することが示唆され、臨床上有意義な知見を提供していると判断できた。

明海大学大学院歯学研究科歯学専攻 新家央康に対する最終試験は、2021年1月8日、主査 申基喆教授、副査 藤澤政紀教授、天野修教授、横瀬敏志教授の4名により行われた。論文審査ならびに専攻学術に関し、口頭試問を実施し、合格と認めた。また、新家央康の語学試験は、大学院入学試験の外国語試験の結果をもって合格とした。

よって、申請者：新家 央康は、博士(歯学)の学位を授与されるに値するものと判断した。